

平成28年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 犬島ESDワークショップ「いぬじま探検隊 PARTⅢ」

団体名 岡山県立大学 森下眞行研究室+学生サークル 担当者名 森下 眞行

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

岡山・総社市内の小学生を対象としたESDワークショップ「いぬじま探検隊 PART-Ⅲ」を岡山市の犬島自然の家で開催した。森下眞行研究室のゼミ生を中心にデザイン学部の1年生サークルが初参加し、ワークショップの材料づくりから当日の制作指導まで協力して実施することができた。今年度は心配した台風の影響もなく、予定通り1泊2日のスケジュールをこなすことができ、昨年度、台風のため予定変更のため実施できなかったワークショップを実施できたことは大いに意義があった。

ワークショップ「いぬじま探検隊 PART-Ⅲ」

- ・日 程： 平成28年8月23日（火）～平成28年8月24日（水）
- ・場 所： 岡山市立犬島自然の家（岡山県岡山市東区犬島119-1）
- ・参加者： 12名（総社市内11名、岡山市内1名）
- ・スタッフ： 学生11名（院生1、4年2名、3年3名、1年5名）、教員1名
- ・実施内容： ワークショップ① いぬじまグリーンマップづくり（犬島）
ワークショップ② 空き缶のキャンドルホルダー（自然の家ピロティ）
ワークショップ③ 廃材カードゲームで遊ぼう！（自然の家）
ワークショップ④ 買い物袋で凧づくり（自然の家）



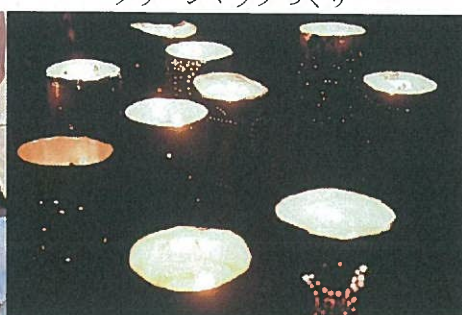
いぬじま探検隊調査中



グリーンマップづくり



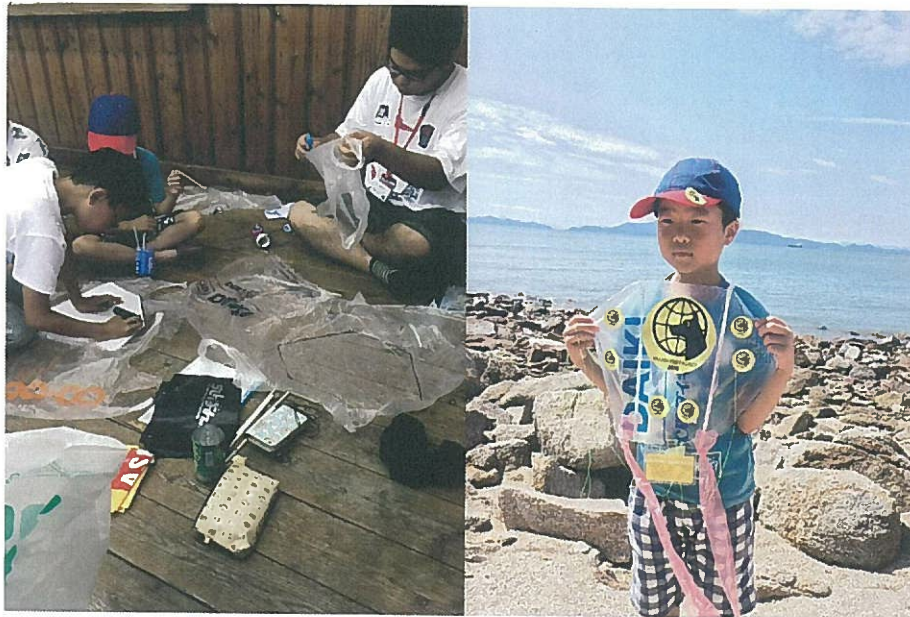
キャンドルホルダーづくり



キャンドルナイト



廃材カードゲーム



買い物袋で凧づくり

凧揚げ大会

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

本事業での ESD の視点としては、活動全体を通じて、スタッフや参加者に身につけてほしい知識や能力、姿勢として、以下のような 3 つの目標を第 1 回より設けている。

1. 瀬戸内海の離島の歴史や文化を学びながら、未来とのつながりを考えられる力。
2. 離島の現状と課題を学びながら、自らの生活や地域社会との関係性と結び付けて考えられる主体的な力。
3. 体験を通じて得た自らのライフスタイルや価値観の意識や行動の変化、変容を拡散できる力。

「いぬじま探検隊 PART-III」では、前回に引き続き、「離島問題」「環境問題」や「自然の大切さ」に焦点を当てたワークショップを実施した。

ESD の視点として、具体的に実施した内容は、以下の通りです。

- ・WORKSHOP 1「グリーンマップづくり」；自然を観察する力、チームとしてメンバーと協力する力を養う。
- ・WORKSHOP 2「空き缶でキャンドルホルダーづくり」；環境問題やエネルギーについて学び、地域の問題を知る機会を与える。
- ・WORKSHOP 3「廃材カードゲーム」；地域の問題について学ぶ機会を与える。
- ・WORKSHOP 4「ゴミ袋で凧づくり」；自然を相手に遊び、未来について考える力を養う。

以上のワークショップに参加した子どもたちが、このままでは持続発展が不可能である地球や地域の問題について知り、解決するための行動を促すことを主な目的とした。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

今年度のチームは、昨年度の「いぬじま探検隊 PART-II」メンバーがほとんど卒業し、ゼミの学生も少なくなったため、新たに新1年生のスタッフを加えて総勢12名になったが、当日体調不良1名が発生し、11名の学生と教員1名で実施した。また、参加者も第1回いぬじま探検隊から参加したリピーターと兄弟姉妹で、ワークショップ全体を通じて、学生スタッフとの交流も活発であった

具体的には、アンケート結果から、ワークショップの内容については、多くの参加者が満足していた。特に、学生スタッフとの共同で作成したキャンドルホルダーづくりや凧づくりは好評であった。また、廃材カードについても、就寝直前まで楽しむなどの様子が印象的であった。グリーンマップ作りについては、子供達の視線で、これからも犬島に残すべき風景や場所の確認が出来たが、スケジュール的な面で発表時間が取れなかったこともあり、全員での共有が出来なかった。

4. 今後の課題と展望

今後の課題としては、昨年同様に「いぬじま探検隊」の推進役となった学生の卒業と体制の維持です。また年生が卒業するため、次年度以降もこの事業をいかに持続可能な活動としてゆくかです。そのため、ESDサークルのような学生グループを立ち上げ、卒業後も活動が学生主導型で進めていけるように働きかけを行いたい。今回、天候に恵まれ、予定していたワークショップはすべて実施できたが、熱中症対策を準備したにも関わらず、帰船時に数名が体調不良を訴えたことから、引率する教員不足も次年度への課題としての考えるべきである。

今後の展望としては、昨年度より本学が知(地)の拠点として地域密着型の教育方針を重点的に推進していることから、本事業についても、本学の地域貢献としての教育活動の一部として位置づけていくことです。